

3-3 宮城県沖の地震活動パターン変化 (その6)

Current Seismicity Pattern Change around Off-Miyagi Prefecture (Part 6)

防災科学技術研究所

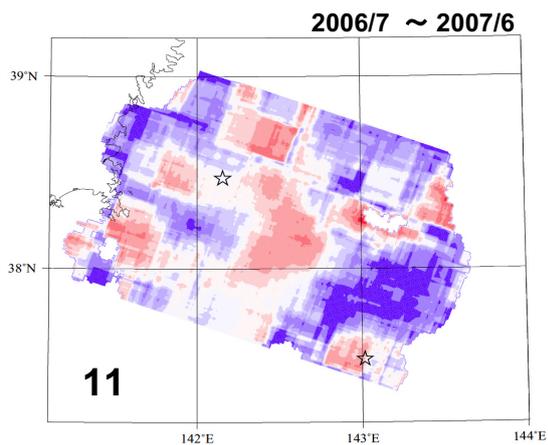
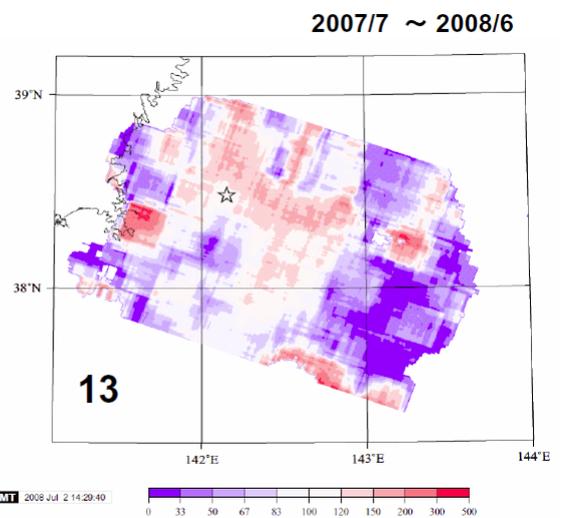
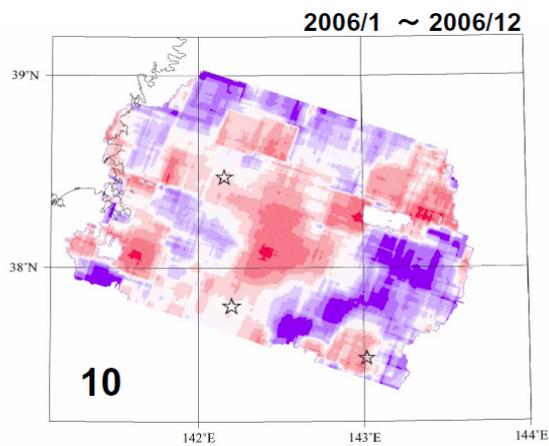
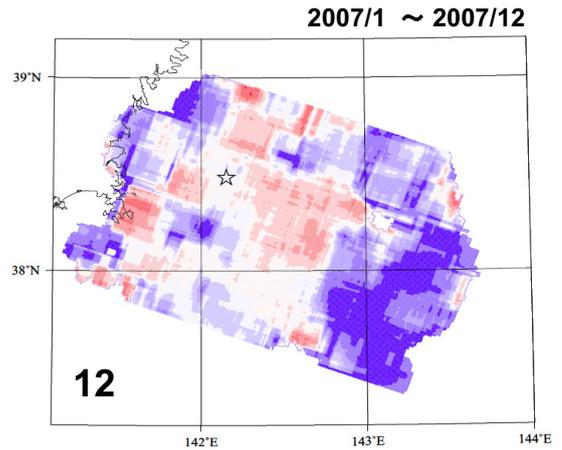
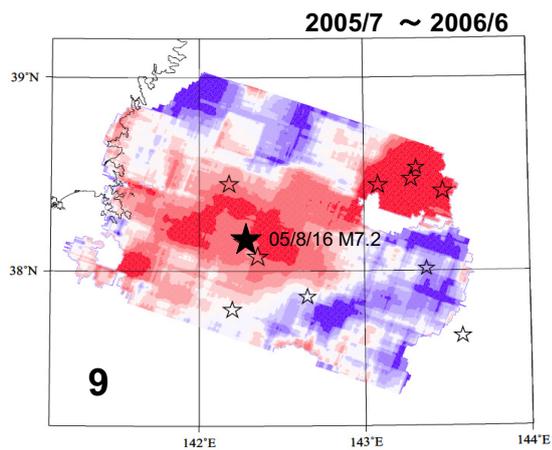
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

前報¹⁾に引き続き、宮城県沖の地震活動変化について報告する。第1図は、2005年8月の宮城県沖地震(M7.2)以後、2008年6月までの活動度変化を示す。1年間を調査期間とした各ステージの図は、その前5年間の活動に対する地震発生率比をカラーグラデーションで示し、期間を半年ずつずらせていったものである。対象とする地震は、太平洋スラブ内二重地震面上面のM1.5以上とし、デクラスタリング処理を施している。星印は、それぞれのステージに起きたM5以上の地震を示す。最新は第13ステージである。第12ステージから大きな変化はないが、中央部の赤色がさらに薄まり、北部及び西部への応力集中がやや進んだようにも見える。なお第13ステージでは、調査領域南端に活性化域が見られるが、次のステージで、この部分のやや南方にM6.9の地震(2008年7月19日, 37.52° N, 142.26° E)が発生している。

(松村正三)

参考文献

- 1) 松村正三, 連絡会報, 80, 73-74, 2008.



第1図 地震活動変化 (青：静穏化，赤：活性化)．デクラスタリング処理を施した M1.5 以上の地震に対して調査対象期間 1 年分の活動をその前 5 年分と比較している．星印は各ステージで起きた M5 以上の地震．

Fig.1 Color contours correspond to the seismic activity ratios between the focused period (one year) compared to the standard one (preceding five years). Stage 9 contains the M7.2 on 16 August, 2005, and its after sequences. Stars are epicenters of M5 and greater earthquakes occurred on each stage.